

1. 本年度の重点目標
「自ら考え、共に高め合いながら学びを深める子どもの育成」

2. 自己評価結果に対する学校関係者評価

領域	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	達成状況の適切さ	改善方策の適切さ
経営方針の重点	一人一人に基礎基本の確実な定着と体力の向上を図ることができたか	B	<p>○学校は、校内研修等を計画的に行い、教職員の資質向上を図るとともに、個に応じた学習指導法の工夫・改善に努めてきました。</p> <p>《教科指導について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で学校が長期間休校になる中、児童の学びを継続するための学習シートの配布を行いました。また、学習の遅れやつまづきの見られた児童に対して、個別指導を実施し、理解や深化の支援に努めて参りました。 ・研究内容を生かし、言葉力の育成を通じて、言語能力を高めることで、表現できる児童の育成を目指し取組を進めています。学校全体で研究授業等で授業力を高め、個々の教師が授業改善を進めることで、指導の充実にも努めてきました。 <p>①指導課程の工夫・改善 (主體的・対話的で深い学びのための授業づくり 教師のICT機器の活用や工夫)</p> <p>②表現できる児童の育成を目指した言語活動の充実の取組 (語彙力の充実・聞き方の指導・書くことの指導の工夫)</p> <p>③学習規律や学習習慣の定着 (学習時間の机上に置いておくもの、姿勢等)</p> <p>④基礎学力の向上 ・家庭学習の取組強化:かがやきタイムの活用(自主的な家庭学習の計画) ・自主的な復習の場の設定 (類似問題、復習プリント、算数に親しむプリント) ・くり返し学習することによる基礎学力の定着(同じ問題をさせることで「理解」から「習得」)</p> <p>○今年度の全国学力学習状況調査は実施されませんでした。校内で試験を実施し、結果を分析しました。その結果、国語については、目的や意図に応じて、文章全体の構成を考え書く力が高い反面、いくつかの条件を満たしながら書くことに課題があることがわかりました。また、算数では数と計算、量と測定の領域で正答率が高かったものの、図形についての理解に課題がみられました。今後、その点を意識し、さらに指導の充実に努めていきたいと考えます。</p> <p>《体力の向上について》</p> <p>① 密にならない対策をとりながらの体育の授業の工夫</p> <p>② 日常的に取り組める環境整備 ・体育委員会企画の「走れ！豊幌！」、日常的に取り組める体力づくり(垂直跳び・幅跳びコーナーの充実)</p> <p>③ 縄跳び月間の取組み【2月の参観日公開予定】</p> <p>④ 外遊びの奨励・推進など</p> <p>⑤ 新体力テストの実施(5年生)</p> <p>例年は、全学年で「新体力テスト」を実施してきましたが、今年度は、コロナ禍で5年生での実施となりました。休校明けは、かなり児童の体力の低下傾向が見られましたが、その後、「走れ豊幌」や運動会に向けての取組の中で、徐々に体力を取り戻していった様子がうかがえました。5年生の傾向としては、「力強さ」「走力」はあるが、「運動を持続する力」に課題があることがわかりました。今後、この点も踏まえながら、児童の体力の向上を図っていく取組を進めていきます。</p>	A	A
	道徳授業及び縦割り班活動・児童会活動等の取組を通し、児童に思いやりの心や自尊感情を育むことができたか	A	<p>○重点目標の一つ「人との関わりを大切に助け合うことのできる子の育成」のために、学校は下記のような取組を進めてきました。</p> <p>① 感染状況を見ながら、縦割り活動(清掃等)の継続と充実</p> <p>② 道徳授業の充実(距離を取り、感染防止対策を取りながら思考交流や対話的な活動の工夫)</p> <p>③ 学級での日常の声かけ</p> <p>1～6年生で縦割り班を作り、清掃活動、お楽しみ集会、班割り班遊びの活動を行ってきました。上の学年は下の学年のお手本になろうとする姿が見られるなど、高い教育効果が得られるためです。今年度は、感染防止のために例年のような十分な取組は行えませんでした。しかし、感染状況の落ち着きや感染防止対策を取りながら、伝え合い教え合う場面の導入を工夫し、実践してきました。また、運動会や学芸発表会では、他学年の頑張ったところ等を見つけ、手紙にし、伝え合うことで自己肯定感を高める取組を引き続き大切にしています。これはお互いを認め合うことのできる豊かな心の育成を目指した取組として、効果をあげてきているためです。</p>	A	A
	指導方法の工夫改善に取り組み、確かな学力が身につくような「わかる授業」を行うことができたか	A	<p>○本校では、「一人一人がわかる授業」を目指し、指導体制や指導内容・方法を工夫しながら、職員全員で指導を行ってきました。</p> <p>①「一斉指導」:一人の教師がクラス全員を対象に指導</p> <p>②「複数教員指導(ティームティーチング=T・T)」:複数の教師で役割分担しながらクラスを指導</p> <p>③「少人数指導」:クラスをいくつかのグループに分けて人数を少なくして指導</p> <p>④「習熟度別少人数指導」:習熟度別に少人数でグループを編成して指導(※算数科・総授業時数の4時間につき3時間程度で実施)</p> <p>⑤「個別指導」:この実態に合わせて、別室で個別に指導</p> <p>それぞれの取組については、保護者アンケート等でも、よい評価をいただきました。次年度も「わかる・できる・楽しい授業」をめざして、算数において、習熟度別少人数指導を中心に、一人一人の能力を最大限伸ばす取組を進めていきます。また、北海道教育委員会や江別市教育委員会の事業(指導方法工夫改善のための教員配置、授業サポート教員配置、出前事業等)も積極的に活用していきます。</p>	A	A
教育課程・学習指導	地域の特色を生かした教育活動は豊かな心を育むのに有効であったか	B	<p>○学校では、地域と連携し、本校の特色である農業・食育体験や福祉体験等の「体験活動を重視した教育」、専門的な知識や技能をもった地域や外部の方を講師に招いて授業をする「出前授業」や育成会と連携した文化的行事(芸術鑑賞会)を実施し、子どもたちの心に残り、豊かな人間性に結びつく取組を進めてきました。今年度は、新型コロナウイルス感染症防止のため、外部人材を積極的に呼び入れた活動は出来ませんでした。が、地域の方のご協力もあり、総合的な学習の時間では、3年生:小麦、4年生:大豆、5年生:米、6年生:じゃがいもの栽培学習を実施させていただくことができました。今後も自然豊かな豊幌地区の特色を教育活動に最大限取り入れ生かして実践を行っていききたいと思います。また、地域への感謝の気持ちを忘れず、本校の教育活動を更に充実・発展させていきたいと考えます。</p>	A	A

生徒指導	関係機関と連携を図りながら、全職員で子どもたちを育てる校内体制づくりを進めることで、子どもたちは喜んで登校することができたか	<p>A</p> <p>○学校は、個に応じた指導や支援の充実を図るために、職員全体で一人一人の児童について共通理解を図りながら、組織的に対応できる校内体制づくりに努めています。</p> <p>①心の教室相談員：児童の悩み相談、教師へのアドバイス</p> <p>②パートナーティチャー事業：他機関より、専門家が来校し、WISC検査の実施や指導法のアドバイスをを行う</p> <p>③英語のALT(アシスタント・ランゲージ・ティチャー)</p> <p>④学習サポート講師(教員免許所有者)</p> <p>⑤特別支援教育補助員(個別児童への支援)</p> <p>専門的知識を有した教員が特別支援教育コーディネーターをしています。担任の相談のつたり、関係機関との連携もスムーズに進めております。</p> <p>自己肯定感を高められるような指導・支援に努め、素直な豊幌の子どものよさを生かしつつ全ての児童が喜んで登校していると実感できる学校をめざしていきます。</p>	A	A
いじめ対応	学校は、子どもの悩みや問題に寄り添い、家庭と連携しながらいじめのない学校づくりに取り組んでいるか	<p>A</p> <p>○学校は、いじめ調査を含め、日常観察をしっかりと行い、児童生徒の悩みや問題に対し、全職員で児童の状況を共有し、また家庭と連絡を密にしなが、問題の解決に向けて取組を進めています。</p> <p>①いじめ調査の確実な実施を行い、全職員で状況を共有、組織的な対応を行う。</p> <p>②いじめ対策委員会で児童の状況や対応について客観的に分析、その後の組織的な指導や支援に繋げる取組を進めています。</p> <p>③日常観察を行い、児童の変化について職員間で積極的にコミュニケーションを図っています。</p> <p>④保護者と緊密に連携し、学校の気づきや把握した状況について出来るだけ早期に共有を図り、連携して問題の解決に当たっています。</p>	A	A
学校と保護者の連携	家庭や地域との連携(情報発信・交流)に努め、基本的な学習・生活習慣(家庭学習の習慣化や早寝、早起き、朝ごはん)の確立や安全・安心のための取組は進められているか	<p>A</p> <p>○保護者や地域から信頼される学校を目指し、学校便り・学年便りの発行、HPの定期的な更新を行い、情報発信・相互交流に努めています。今年度は、新型コロナウイルスに関して、休校や行事等の変更について、文書、メール、電話連絡を通じ、出来るだけ丁寧な説明と情報発信につとめてきました。また、休校中においても、学習プリントや習慣形成の補助となる資料を配付、家庭と連携を図りながら、家庭学習の習慣化、早寝・早起き・朝ごはん等の生活の基本習慣の確立を目指した取組を進めてきたところです。</p>	A	A
<p><評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見></p> <p>・学校が一斉休業中や新型コロナウイルス感染防止対応の中で、学力や体力の向上に向けて、教育活動や行事にどのように取り組んできたか理解することができた。</p> <p>・令和3年度に向けて、学校経営計画にもとづき、感染防止対応をとりながら、どのように学校運営を行っていかうとしているか方針を聞くことができた。</p> <p>・学校もコロナで大変な中、先生方は子どもたちが安全を確保し、安心して学校生活を過ごすことができるよう、尽力されていると思う。以前の生活に戻るには、まだまだ時間がかかりそうですが、そのような中でも豊幌らしさを生かし、毎日が楽しいと思える学校になればよいと思います。私も地域の一人として、何かお手伝いができればと思っております。</p> <p>・小中一貫教育の中で、中学校に進学する前に、中学校の授業を体験できたり、小学校同士の交流が図られ、中1ギャップが緩和されたりするような取組を行って欲しい。</p> <p>・コロナ対策に追われた一年だったと思います。その中で工夫したり思案したりして、最善な方向に導いてくださり、ありがとうございます。教職員の皆様の努力に感謝いたします。これからもご自身の体にも気をつけて、学校運営によりしく願っています。</p> <p>・月1回の学校便りを回覧で拝見いたしますが、中々取組の内容の詳しい中身等までは分からないのが残念です。本当に日々の努力に頭が下がる思いです。</p>				

【評点】

A: 良い

B: 概ね良い

C: やや不十分

D: 不十分